

# 条件整理シートの使い方

★使用する目的、目標を持つ

こちらはやまなみの目的です。  
自分自身が持っている課題（苦手なところ、昨年の敗因）を過去問を使い、どのように克服したいか、目的を明確にしました。参考までに！

例く本試験でできるようになりたいこと

同じ手順で条件整理を行うことで、本番でも同じように条件整理ができるようになる。  
ブレない【流れ(基本)】を身につける。

一つ一つの手順を踏むことで、思考回路の暴走を防ぐ。

ポイントを抑え、求められることだけに集中し、自分の考えを入れずに客観的に淡々と成立するか否かだけを考える。

条件整理/プランニングの境目が曖昧だと、自分の都合の良い方向に向き、求められていることと異なってしまう恐れがあるため、境目を明確にできるようにする。

「書く」ことで、「思考のブレ」を抑制する。

「書かないこと」は、「頭の中で考える(=思考する)」ことであり、「思考している間」に、やるべきことがぼやけてしまい、変な方向へいたり、余計なこと(基本以外のこと、細部のこと)にフォーカスしてしまい、方向性を間違え恐れがある。

→思考に制限をかけ、自分の好きな方向へ持っていかないように、方向性を見失わないようにする！

このシートは、練習課題にも活かすことができる！

- ・プログラム図
  - ↳課題文からのポイント(主文や留意事項、計画の要点等、成立したかチェックする)を含む
- ・空間構成4ポイント(6マル、チビコマの後で成立したかチェックする)
- ・シンプル図(6マルに出てくるキーマン)

これらを描き出すことは、ポイントを絞って書くということ。

単純に、これらを「成立」させる。

迷いなく、淡々と、条件と求められることのみをフォーカスする練習！！

これは試験！！！！

①事前準備  
(通常の課題文読みのような感じ)  
a.課題文に空間構成のポイントとなる部分に「オレンジマーカー」を引く。  
b.要求室のボリュームを出す。  
↳部門、グループで合計のコマ数を出す。

①登場人物(施設利用者)  
主文、要求室の特記から、登場人物(施設に訪れる人)を書き出す。  
地域住民、A部門利用者、B部門利用者、スタッフ、施設管理者、講師、講演者、etc  
あまり細かすぎなくてもいいけど、ざっくりと書き出す。  
部門で色分けする時と同じ色でマーカーをつけておく。(つけておかなくても良い)

<a.課題文に空間構成のポイントとなる部分に「オレンジマーカー」を引く。>  
↳オレンジマーカーを引くコツ  
・空間構成四要素(配置計画、動線、ゾーニング計画、要求室等の計画、立体構成)に関わるものが記載されているかどうかを意識する。(四要素を唱えながら引く)  
・主文や留意事項、特記事項などに書いてある「この課題の特色」をピックアップする。

②敷地(人の流れ・アプローチ)  
①の各登場人物が、どこからどのように来るか？  
敷地図をトレースして、人の流れを書き込む。  
駅から来る人、公園から来る人、車椅子で来る利用者、近隣駐車場から来る人、、、etc

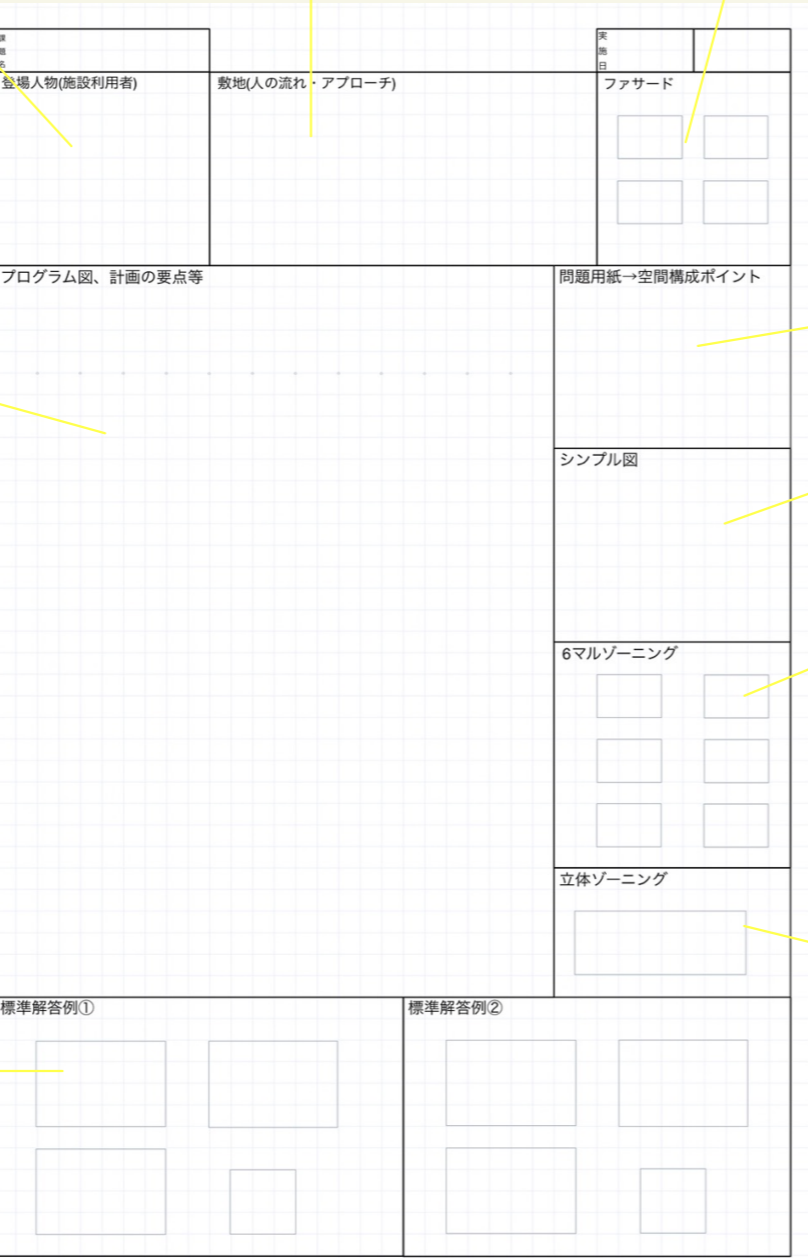
③ファサード  
敷地の裏表、そこに刺さるアプローチを4パターンを書く。  
②のアプローチから、4パターンのうち、王道(基本、動線が濃くなる)となりそうなパターンに👉マーク。  
ありえないパターンには、「/」を入れる。

【参考】  
木たてさんのツイート「ファサードを探す旅」  
<https://twitter.com/mt79mkw/status/1258038379096141824?s=21>

④プログラム図、計画の要点等  
プログラム図を書く。  
計画の要点等の内容をプログラム図に反映する。  
オレンジチェックをプログラム図に赤字で反映する。(空間構成のこと、大空間、動線配慮など)

標準解答例 6マルゾーニングの作成POINT  
ボリューム(コマ)ではなく、大枠、骨格を見て書く！  
コアも書く。色塗りもする。

標準解答例①、②(練習課題のまとめの場合は、練習課題解答例と読みかえ)  
標準解答例の6マルゾーニングを作成し、自分が作成した⑥シンプル図の関係性がどのように表れているか、また、⑦6マルゾーニング右側の6マルと比べる。



⑤問題用紙→空間構成ポイント  
空間構成のポイントとなる「オレンジチェック」を列記。  
(主文・留意事項・計画の要点等)  
1 配置計画  
2 動線・ゾーニング計画  
3 要求室等の計画  
4 立体構成

⑥シンプル図  
プログラム図を簡略化し、⑤の関係性を反映する。  
⑥b.部門・グループのボリュームを転記。

⑦6マルゾーニング  
a.左側  
ざっくりと階別のゾーニングを書く。(ボリュームは関係なし)この時に、③で選んだファサード👉を使うことを意識する。  
b.右側  
aをベースに、⑤⑥⑧を反映する形で落とし込む。

⑧立体ゾーニング  
a.階振りゾーニングを反映しボリュームを落とす  
b.シンプル図の左側  
ざっくりと階別のゾーニングを書く。(ボリュームは関係なし)  
b.ボリュームを反映して、正形にする。

6マルを分解する。  
1. 階だけのゾーニング  
2. シンプル図(関係性)を落とし込んだゾーニング  
1と2の違いは、標準解答例を逆追いつことで体感する。  
6マルでプランニングしないとすることは、1と2の段階で細かいことは考えない。

※⑦⑧の使い方は、確定していません。  
アレンジというか、好きなようにご使用ください。  
スペースが足りない場合は、プログラム図側にはみ出してもOKです👉  
また、⑦は、a、bで順を追って変化するような形で解説は書いてありますが、6マルのパターン自体は複数考えられる場合があります。

①から⑧の一連の流れが条件整理で、この後からプランニングに入ります。  
このシートでは、【プランニング】や【自分の考え】は一つも入ってきません！  
そしてプランニングでは、組み立てたものが成立するか、成立しない場合は、別のファサード、別の6マルのパターンを検討する、そのように進めます。  
参考までに！